血液透析患者における透析歴と血管内皮機能の関係
-FMD（Flow Mediated Dilation）での検討-

長崎腎病院
〇中村寿恵　田川秀明　飯野八朗　内野拓寿　宮崎健一　李嘉明　橋口純一郎
船越哲　原田孝司

【背景】
血管内皮機能に影響を与える因子は多様で、現在脂質との関連は多数報告されているものの、特に透析患者における臨床知見は少ない。

【目的・方法】
当院の維持透析患者のFMD値と各因子との関連を調査する。

【結果】
当院の血液透析患者43名（男性22名/女性21名、DM18名/非DM25名、平均年齢64.9才、平均透析年数8.5年）のFMD値の平均は3.1%で、健常者の標準値(6.0%以上）に比べて低値を示した。%FMD と最も強い相関がみられたのは透析歴で（R=-0.38)、年齢でごく弱い相関を認めた。他は、HbA1c・脂質との相関は認められなかった。

【考察】
透析患者の血管内皮機能は障害されており、これに与える最も強い因子が透析歴であったことより、血糖や脂質以外の要因が関与していると思われる。